

准教授 早川 知江

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
<p>◎教育方法の実践例 「英語1」 「英語3」 「教養講座（社会）」 「外国語活動」</p>		<p>「英語1」は、英語の絵本を講読する形式。絵本の画像をスライドで映写し、理解を深めるとともに絵本の楽しさを味わえるよう工夫した。本文に含まれる文法事項の解説にもスライドを利用した。その理由は、1. 板書よりも学生に見やすい 2. 授業中の書き込みが容易 3. 視聴覚的要素で理解を深めるとともに学生の興味をひくため。</p> <p>「教養講座（社会）」は、学生がグループで協力して絵本を制作し読み聞かせをするプロジェクト授業。前半の絵本に関する講義では、やはり映像資料を多く用いて、学生の理解を深めるとともに、絵本の楽しさを味わえるよう工夫した。後半のグループ活動では、全員がそれぞれの得意分野を生かして制作・読み聞かせに協力できるよう、学生どうして話し合わせ、チームプレーを促した。</p> <p>そのほか「英語3」「外国語活動」を含め、英語の授業はほぼ毎回小テストを実施し、こまめな復習と学習内容の定着を図った。</p>
<p>◎作成した教科書・教材 「英語1」 「英語3」 「教養講座（社会）」 「外国語活動」</p>		<p>「英語1」は英語の絵本を講読する形式で、毎回、絵本本文をプリントにして配布した。プリントには、学生が自分で予習してきた訳を書き込むスペースや、板書事項をメモする部分なども設け、教材としての利便性を図るとともに自主的な学習を促した。</p> <p>「英語3」は、社会の中で用いられる英文を用いて実践的な語学力を身につけるため、TOEICの対策本などを利用したが、問題の解説については自作のプリントを使用し、内容を理解しやすいよう工夫した。</p> <p>「外国語活動」については、市販の教科書『Bright and Early：子供に英語を教えるための教室英語』を中心的に用いたが、活動にバリエーションを持たせるため、英語の子供の歌などを適宜使用した。</p>
<p>◎当該教員の教育上の能力に関する大学の評価 「英語1」 「英語3」 「外国語活動」</p>		<p>学生による授業評価結果（後期のみ）は次の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英語1」は、同じ教材を用いて東西合計3クラス開講したが、どのクラスもほぼすべての項目に対して「学部平均点」と同じか、やや良い結果だったため、ほぼ平均的な授業と受け止められていると理解した。同じ教材・同じ方法で教えたように認識しているが、クラスによりやや数値が異なるのは興味深かった。その理由については、どの項目に何点をつけた学生が他の項目に何点をつけたか、といったクロス分析がないので何とも言えないが、学生の自己評価（設問3, 4, 5）が高いクラスでは、教員に対する評価（設問1, 2, 3）も高い傾向があるように思われる。 ・「英語3」はTOEIC testの模擬試験も取り入れた実践的授業であったため、他の英語の授業よりレベルは高かった。そのため、設問4（授業内容を理解できたか）が、私が担当した他の科目よりも低かった。しかし、設問8（授業への満足度）や設問10（教科書・プリントの有益さ）に対する評価は高かった。これは、授業の最初と最後に模試を行ったため、自分の上達度が実感でき、難しい内容ながらも達成感が得られたためだと考える。

			・「外国語活動」この授業は、人間発達学部の主に小学校教員免許希望者が選択で履修する科目のため、毎年受講生が少なく、今年も4人だけだった（1人は登録のみで1度も出席がなかったため、人数から除外して考える）。人数が少ない授業の方が、全般的に評価が高くなる傾向があるが、この授業もそうだった。設問9（集中できる環境だったか）の評価が良いことなどは、特にそれが原因だと考えられる。
--	--	--	--

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
◎学術論文 「絵で表せる意味、文で表せる意味：絵本の文を絵にする」	単著	2016. 10	『Proceedings of JASFL』 Vol. 10： pp. 1-13 日本機能言語学会	絵本には、絵でのみ表される意味、文でのみ表される意味がある。絵を見ずに、絵本の文だけ聞いた被験者（本学学生の協力を得た）が、文の内容をどのように絵で表したかの実験データを分析することで、「意味」には、絵にしやすい意味と絵にしにくい意味があることを示した。
「外国語活動」と絵本：言語理解における絵の役割」	単著	2017. 3	『名古屋芸術大学教職センター紀要』第5号 pp. 43-54.	英語を学び始めたばかりの小学生に対しては、理解できない英語表現の説明の仕方に工夫がいる。様々な外国語教育研究により、「日本語に訳す」ことよりも、「英語を英語のまま理解させる」ことの重要性が指摘されている。絵本は、絵によって、日本語訳に頼らず内容を理解させる重要な教材となりうる。実際の絵本を例にとり、児童が解釈に躓きがちな本文に対し、絵がどのような解釈のヒントを与えているか、実例とともに論じた。
「英語授業での絵本の利用—語彙文法理解への絵の役割—」	単著	2017. 3	『名古屋芸術大学研究紀要』第38巻 pp. 233-248.	絵本の絵が本文解釈の助けになることは、子ども相手の授業に限らない。絵本の本文は、大学レベルの授業でも解釈に躓く部分が多く含まれる。本稿では、大学での実際の英語講読の授業で多くの学生が役に立った部分を取り上げ、絵が内容解釈にどのようにヒントになるかを論じた。
◎その他 学会発表 「絵本の中の「いたずら」：SFTの枠組みで効果を語る」		2016. 10. 8	日本機能言語学会（JASFL）第24回秋期大会（立命館大学 びわこ・くさつキャンパスにおいて）	絵本には、読者を楽しませる工夫やしかけがたくさんある。それらの工夫について、なぜ面白いのか、その効果がどのように生み出されるのかを明示的に語る事が、絵本の特性を明らかにするためには欠かせない。本発表では、「隠れ登場人物」という工夫に焦点を当て、有名な古典絵本 <i>Goodnight Moon</i> の中にもどのような登場人物が隠れているか、それを見つけることが読者にとってなぜ面白いのかを、画像の文法の観点から分析した。結果として、representational（内容的）、interactional（対人的）、compositional（構成的）の3つの意味

				が協力することで、i) 読者を観察者と位置づけ、ii) 「覗き見」的状況を生み出して観察を面白くし、iii) 隠れ登場人物を見つけにくくすることで搜索を盛り上げ、iv) 隠れ登場人物に対して親近感をもたせる、という効果が生み出されている。
--	--	--	--	---